

令和5年12月8日

各報道機関文教担当記者 殿

衛星「こよう」、地上との通信に成功

X線突発天体監視速報衛星「こよう」(金沢大学衛星1号機)は、2023年12月6日までに、搭載した通信系の全てでデータの送受信ができることを確認しました。併せて、地上で受信されたデータの解析により、事前の計画通り衛星が自律的に太陽電池パドルを展開し、太陽電池の向きを太陽方向に維持していることが確認されました。

本衛星は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の革新的衛星技術実証3号機の実証テーマのひとつとして選定され、日本時間2023年12月2日未明に打ち上げられました。現在、科学観測フェーズの運用に向けて、バス機器の調整を進めています。

この成果は、衛星打ち上げ後に教員の指導のもとで自然科学研究科及び理工学域の学生が運用実践して得られたものです。

理工研究域先端宇宙理工学研究センターは、「こよう」衛星プロジェクトにおける運用実績を経て、人工衛星の設計・開発から試験・運用にいたる教育を実践する体制を整備してきました。本学は今後も、実践に基づいた宇宙理工学人材の育成に努めてまいります。

「こよう」衛星の運用状況については、随時大学公式Webサイトおよびプレスリリースを通じてお知らせします。

【本件に関するお問い合わせ先】

■研究内容に関すること
理工研究域電子情報通信学系 教授
八木谷 聡 (やぎたに さとし)
TEL: 076-234-4858
E-mail: yagitani@is.t.kanazawa-u.ac.jp

■広報担当
理工系事務部総務課総務係
廣田 新子 (ひろた しんこ)
TEL: 076-234-6821
E-mail: s-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp